

卒業生のいま



草津市立渋川小学校 教諭 **木下 和音**さん

■ Profile 岐阜県出身。平成26年3月、滋賀大学教育学部学校教育教員養成課程学校臨床コース卒業。同年4月、滋賀県草津市立渋川小学校へ赴任。2年生の担任となる。今年は持ち上がりで3年生を担当。子どもたちと真摯に向き合う毎日。大学時代はサッカー部のマネージャーや学園祭実行委員として活躍。特技は書道。冷蔵庫の残り物を使って料理するのが好き。ストレス解消法は琵琶湖に行って叫ぶこと。(平成27年5月取材)

琵琶湖に一目ぼれして滋賀大へ 包容力のある教師になりたい

■ 担任の一言で進路を再考

子どもが好きで保育士になりたかったのですが、高校2年生の時、担任に「本当にやりたいことはほかにあるんじゃない?」と言われ、もう一度自分を見つめ直してみることに……その結果、みんなで一つのものを目指したり、つくりあげたりしていくのが好きな自分に気付いて、教師を志すようになりました。

国公立の教育学部の方が手厚い指導を受けられると考え、あちこちのオープンキャンパスに行ったのですが、滋賀大を見に来た時、ちょうど琵琶湖でレガッタの大会が行われていたのです。初めて見た琵琶湖に感動して、連れてきてくれた父に「私、滋賀大で勉強したい!」と(笑)。それからとにかく一生懸命に勉強しましたね。

■ 教育実習で感じた教師の醍醐味

教育学部の臨床コースでは、みんなで参考文献を読みながら学校現場の課題について議論したり、問題を深く掘り下げたりという、現実的な学びをさせていただきました。

私は中学時代にイジメを受けたことがあり、「楽しいはずの学校なのに、どうしてイジメのような辛いことが起きてしまうのだ



ろう」とずっと考えてきました。ですから臨床コースで学ぶことにより、自分が教師になった時、学校を、互いを思いやる気持ちにあふれた楽しい場所にしたいと思ったのです。

ところが周りから現場の大変さを聞いて、2回生の後半には「もう教師にはならない。子どもたちの未来を背負えない」と、挫折しそうになっていました。でも実習に行かないと卒業できないので、「実習だけは行く」と言って、3回生の時、栗東にある葉山小学校に地域実習*に行ったのです。そこで体験が私に「クラスをみんなでつくっていききたい」という初心を思い出させてくれました。そして、大変さの中にこそ教師の醍醐味があると感じ、教師になりたいという思いを新たにしました。



■ 子どもたちとの時間を大切に

教師になって2年目ですが、昨年初めて30人の児童を前にして「30対1か」と(笑)。この時は一瞬頭が真っ白になって、何を話したかまったく覚えていません。今年は少し余裕が出てきましたが、課題は山積み。いろいろな問題が起こりますが、子どもたちが毎日元気で学校に来てくれるのが嬉しいです。職員室の雰囲気があたたかく、滋賀大の先輩方もたくさんいらっちゃって、的確なアドバイスをいただけるのでありがたいですね。いろいろな経験を積んで、大好きな琵琶湖のように包容力のある教師になりたいです。

子どもたちと共に生きる一瞬一瞬はまさに宝物のような時間。大変ですが、やりがいのある大きな仕事なので、在学生のみなさんも志を持ってトライしてください。

*地域実習…滋賀大の附属校ではなく、滋賀県内の公立学校で行う教育実習

三菱電機株式会社 **魚住 健**さん



■ Profile 大阪府出身。平成24年3月、滋賀大学経済学部ファイナンス学科卒業。同年4月、三菱電機株式会社電力システム製作所経理部原価課に入社。3か月の研修期間を経て7月に正式配属となる。現在、磁気応用医療システム部の製造原価や電力システム製作所棚卸残高の管理などを担当。大学時代は「偲聖寮」で生活し、幅広い人間関係を築く。テニスサークルでは副代表を務めた。趣味は旅行。(平成27年5月取材)

「偲聖寮」で学んだ人とのつきあい方 経理部でもコミュニケーションは重要

■ 「偲聖寮」で培った幅広い人間関係

滋賀大は第一志望ではありませんでしたが、前期試験の結果が思わしくなく、その後先生から「滋賀大は歴史もあり、就職率も高い」という話を聞き、自分の学力レベルも考えて後期募集で受験し、合格しました。

入学後は「偲聖寮」に入り、4年間を過ごしました。「自治寮」だったので、寮長を筆頭に学生自身が寮を管理運営しており、風呂の掃除なども寮生が交替で行いました。入寮時にすべての上回生にあいさつして回るなど、上下関係が大変厳しい面があり、辛く思うこともありましたが、おかげできちんとした言葉づかいやあいさつの仕方、酒のつき方なども覚えることができ、何より幅広い人間関係を構築できたのがとてもよかったと思います。寮を出る時は後ろ髪を引かれる思いでした。今でも寮にいた同級生を集めて忘年会を企画し、互いの絆を深めています。

■ 面接の数をこなしてあがり症を克服

私が就職したのは「東日本大震災」が起こった年だったので、採用時期を遅らせた企業が多かったですね。

インフラ関係の企業を志望しており、三菱電機は電力会社に制御装置や発電機などを提供している会社だったので、興味を持ちました。



私は人前で話す時とても緊張するので、面接は苦手でした。最初はあがってしまっただけで途中で何を言っているのかわからなくなり全然ダメだったので、とにかく数をこなして慣れなければと思い、どうしたらうまく自分の思いを相手に伝えることができるかを意識しながら面接に臨みました。おかげ

であがり症を克服し、人前でも平気で話すことができました。

■ 製造業を支える経理マンへ

入社後1年間は教育主任の担当部署と一緒にやらせていただき、2年目からは1人でひとつの部署を担当。現在は粒子線治療装置を製作する「磁気応用医療システム部」の製造原価担当、「電力システム製作所」の棚卸残高管理担当、「NEDO*」や「経済産業省」などの国家機関からの開発委託金についての費用管理と検査対応を任されています。

原価課は、コスト計算だけでなく、ほかの部門とコミュニケーションをとりながら事業の動向などを察知し、それを計数データに反映させることで経営課題や事業の改善策を浮き彫りにするという重要な役割を担っており、とてもやりがいを感じています。

しかし、私はまだ自分で判断でき処理する範囲が狭いので、今後は仕事を効率よく回しながらもっと経験を積み経理マンとして活躍できる範囲を広げていきたいと思っています。

一言に経理といっても、企業によってその仕事内容は様々なので、就職活動では多くの業種・企業を見るのが大切だと思います。そのためにも初動を早くし、有利に展開できるよう頑張ってください。



*NEDO…国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構